

「ヘリテージング」をテーマとしたシンポジウム「新ヘリテージング発想・金沢」をこのほど、金沢市内の兼六園広坂伏見所で開催しました。「ヘリテージング」とは、近代遺産を意味するヘリテージから生まれた造語で、各地に残されたヘリテージを訪ねて、懐かしさを楽しむ新しい観光レジャーです。ソーシャル・プロデューサーの水野誠一氏をコーディネーターに、陶芸家の大樋年雄氏、女優の蜷川有紀さん、建築評論家の馬場瑋造氏、株式会社フロンティアの社長で金沢経済同友会副代表幹事の福光松太郎氏、ファッション・エッセイストのフロンティア・モレシヤンさん、株式会社センバ代表でユニバーサル・クリエイターの宮田人司氏が石川県でのヘリテージングの方向性や近代遺産の活用策を話し合いました。



旧大和紡績工場倉庫群(金沢市民芸術村) 金沢市大和町(大正5年)



尾山神社神門 金沢市尾山町(明治3年) ※重要文化財



旧金沢貯蓄銀行(尾張町町民文化館) 金沢市尾張町(明治40年) ※県指定有形文化財

旧陸軍第九師団司令部庁舎 金沢市石引(明治31年) ※県指定有形文化財

旧陸軍借行社(とち石川県庁舎石引分室) 金沢市石引(明治42年) ※県指定有形文化財

兼六園や史跡を 世界遺産に

福光●一般に「ヘリテージ」は「明治以降の近代遺産」と定義されていますが、金沢は京都と同じく戦災に遭っていないので、江戸時代から残る建築物の史跡すべてをヘリテージングの対象として考えた方がいいでしょう。いま、兼六園をはじめとする金沢市内の史跡群を世界遺産に登録するため、県、市、経済界などが力を合わせて運動しているところで、あまりに身近すぎたせいか、辰巳用水や野田田の前田家墓所など、多くの歴史的建造物が史跡指定を受けていませんでした。そこで、国から世界遺産登録の推薦をもらって準備として、ヘリテージの史跡指定を急ぎ進めています。



水野●「金沢検定試験」を金沢経済同友会の主催で今年から始めました。十一月二十日に行った第一回試験では、約三千人の受験者数を数えました。検定を通してヘリテージに対する関心も拡大していくものと期待しています。

水野●「ヘリテージ」は「都市遺産」とも訳されますが、金沢にとっては歴史的な「地域財産」と言えます。ヨーロッパと日本のヘリテージに対する接し方の違いをモレシヤンさんが指摘されましたが、少なくとも金沢では、藩政期から残る史跡や建物を守るのではなく、日常生活に活かして活用されています。金沢の場合、ヘリテージが生活の一部と化しているの、ヘリテージの保全活動も自然に受け入れられると思いますね。

水野●それは素晴らしい。お考えですか。モレシヤン●そうですね。産業革命後、徐々に産業技術が発達したヨーロッパと違い、日本は長い鎖国の後の明治期に突然近代化したせいか、ヘリテージの見方や接し方に対して、まだ不慣れに感じます。例えば、世界的に有名なパリのルーブル美術館は、旧ルーブル宮殿を活用したものですが、アーチ状になったその一部が交通の妨げとなり、バスは迂回しなければなりません。しかし、パリ市民の誰もそれに対して文句を言いません。なぜなら、ヘリテージを大切にすることを意識がフランス人のDNAに刻み込まれ、空気を吸うのと同じくらい、自然から当然のこととなっているからです。

水野●それは素晴らしい。モレシヤン●逆に日本では、ヘリテージの保護に説明を求められます。確かに、ヘリテージを保存していくにはお金がかかり、市民に我慢を強いる点がたくさんあります。だからこそ、市民が古い建物を見て美しいと感じる美意識を育て、自分の街に誇りを持つことが大切なのではないでしょうか。

福光●「ヘリテージ」は「都市遺産」とも訳されますが、金沢にとっては歴史的な「地域財産」と言えます。ヨーロッパと日本のヘリテージに対する接し方の違いをモレシヤンさんが指摘されましたが、少なくとも金沢では、藩政期から残る史跡や建物を守るのではなく、日常生活に活かして活用されています。金沢の場合、ヘリテージが生活の一部と化しているの、ヘリテージの保全活動も自然に受け入れられると思いますね。

水野●それは素晴らしい。お考えですか。モレシヤン●そうですね。産業革命後、徐々に産業技術が発達したヨーロッパと違い、日本は長い鎖国の後の明治期に突然近代化したせいか、ヘリテージの見方や接し方に対して、まだ不慣れに感じます。例えば、世界的に有名なパリのルーブル美術館は、旧ルーブル宮殿を活用したものですが、アーチ状になったその一部が交通の妨げとなり、バスは迂回しなければなりません。しかし、パリ市民の誰もそれに対して文句を言いません。なぜなら、ヘリテージを大切にすることを意識がフランス人のDNAに刻み込まれ、空気を吸うのと同じくらい、自然から当然のこととなっているからです。

水野●それは素晴らしい。お考えですか。モレシヤン●そうですね。産業革命後、徐々に産業技術が発達したヨーロッパと違い、日本は長い鎖国の後の明治期に突然近代化したせいか、ヘリテージの見方や接し方に対して、まだ不慣れに感じます。例えば、世界的に有名なパリのルーブル美術館は、旧ルーブル宮殿を活用したものですが、アーチ状になったその一部が交通の妨げとなり、バスは迂回しなければなりません。しかし、パリ市民の誰もそれに対して文句を言いません。なぜなら、ヘリテージを大切にすることを意識がフランス人のDNAに刻み込まれ、空気を吸うのと同じくらい、自然から当然のこととなっているからです。

水野●それは素晴らしい。お考えですか。モレシヤン●そうですね。産業革命後、徐々に産業技術が発達したヨーロッパと違い、日本は長い鎖国の後の明治期に突然近代化したせいか、ヘリテージの見方や接し方に対して、まだ不慣れに感じます。例えば、世界的に有名なパリのルーブル美術館は、旧ルーブル宮殿を活用したものですが、アーチ状になったその一部が交通の妨げとなり、バスは迂回しなければなりません。しかし、パリ市民の誰もそれに対して文句を言いません。なぜなら、ヘリテージを大切にすることを意識がフランス人のDNAに刻み込まれ、空気を吸うのと同じくらい、自然から当然のこととなっているからです。

水野●それは素晴らしい。お考えですか。モレシヤン●そうですね。産業革命後、徐々に産業技術が発達したヨーロッパと違い、日本は長い鎖国の後の明治期に突然近代化したせいか、ヘリテージの見方や接し方に対して、まだ不慣れに感じます。例えば、世界的に有名なパリのルーブル美術館は、旧ルーブル宮殿を活用したものですが、アーチ状になったその一部が交通の妨げとなり、バスは迂回しなければなりません。しかし、パリ市民の誰もそれに対して文句を言いません。なぜなら、ヘリテージを大切にすることを意識がフランス人のDNAに刻み込まれ、空気を吸うのと同じくらい、自然から当然のこととなっているからです。

水野●それは素晴らしい。お考えですか。モレシヤン●そうですね。産業革命後、徐々に産業技術が発達したヨーロッパと違い、日本は長い鎖国の後の明治期に突然近代化したせいか、ヘリテージの見方や接し方に対して、まだ不慣れに感じます。例えば、世界的に有名なパリのルーブル美術館は、旧ルーブル宮殿を活用したものですが、アーチ状になったその一部が交通の妨げとなり、バスは迂回しなければなりません。しかし、パリ市民の誰もそれに対して文句を言いません。なぜなら、ヘリテージを大切にすることを意識がフランス人のDNAに刻み込まれ、空気を吸うのと同じくらい、自然から当然のこととなっているからです。

水野●それは素晴らしい。お考えですか。モレシヤン●そうですね。産業革命後、徐々に産業技術が発達したヨーロッパと違い、日本は長い鎖国の後の明治期に突然近代化したせいか、ヘリテージの見方や接し方に対して、まだ不慣れに感じます。例えば、世界的に有名なパリのルーブル美術館は、旧ルーブル宮殿を活用したものですが、アーチ状になったその一部が交通の妨げとなり、バスは迂回しなければなりません。しかし、パリ市民の誰もそれに対して文句を言いません。なぜなら、ヘリテージを大切にすることを意識がフランス人のDNAに刻み込まれ、空気を吸うのと同じくらい、自然から当然のこととなっているからです。

水野●それは素晴らしい。お考えですか。モレシヤン●そうですね。産業革命後、徐々に産業技術が発達したヨーロッパと違い、日本は長い鎖国の後の明治期に突然近代化したせいか、ヘリテージの見方や接し方に対して、まだ不慣れに感じます。例えば、世界的に有名なパリのルーブル美術館は、旧ルーブル宮殿を活用したものですが、アーチ状になったその一部が交通の妨げとなり、バスは迂回しなければなりません。しかし、パリ市民の誰もそれに対して文句を言いません。なぜなら、ヘリテージを大切にすることを意識がフランス人のDNAに刻み込まれ、空気を吸うのと同じくらい、自然から当然のこととなっているからです。

水野●それは素晴らしい。お考えですか。モレシヤン●そうですね。産業革命後、徐々に産業技術が発達したヨーロッパと違い、日本は長い鎖国の後の明治期に突然近代化したせいか、ヘリテージの見方や接し方に対して、まだ不慣れに感じます。例えば、世界的に有名なパリのルーブル美術館は、旧ルーブル宮殿を活用したものですが、アーチ状になったその一部が交通の妨げとなり、バスは迂回しなければなりません。しかし、パリ市民の誰もそれに対して文句を言いません。なぜなら、ヘリテージを大切にすることを意識がフランス人のDNAに刻み込まれ、空気を吸うのと同じくらい、自然から当然のこととなっているからです。

ヘリテージ保存には 我慢も必要

水野●地元の方々に、あらためてヘリテージや金沢の歴史について。ヘリテージの史跡指定を急ぎ進めています。水野●「ヘリテージ」は「都市遺産」とも訳されますが、金沢にとっては歴史的な「地域財産」と言えます。ヨーロッパと日本のヘリテージに対する接し方の違いをモレシヤンさんが指摘されましたが、少なくとも金沢では、藩政期から残る史跡や建物を守るのではなく、日常生活に活かして活用されています。金沢の場合、ヘリテージが生活の一部と化しているの、ヘリテージの保全活動も自然に受け入れられると思いますね。



フランソワーズ・モレシヤンさん フランス・パリ生まれ。1958年に初来日。NHK「素晴らしいフランス語」初代講師、シャネル美容部長などを歴任。現在、インスティテュート・オブ・マーケティング・アーキテクチャ(IMA)社長

水野●「ヘリテージ」は「都市遺産」とも訳されますが、金沢にとっては歴史的な「地域財産」と言えます。ヨーロッパと日本のヘリテージに対する接し方の違いをモレシヤンさんが指摘されましたが、少なくとも金沢では、藩政期から残る史跡や建物を守るのではなく、日常生活に活かして活用されています。金沢の場合、ヘリテージが生活の一部と化しているの、ヘリテージの保全活動も自然に受け入れられると思いますね。

水野●「ヘリテージ」は「都市遺産」とも訳されますが、金沢にとっては歴史的な「地域財産」と言えます。ヨーロッパと日本のヘリテージに対する接し方の違いをモレシヤンさんが指摘されましたが、少なくとも金沢では、藩政期から残る史跡や建物を守るのではなく、日常生活に活かして活用されています。金沢の場合、ヘリテージが生活の一部と化しているの、ヘリテージの保全活動も自然に受け入れられると思いますね。

水野●「ヘリテージ」は「都市遺産」とも訳されますが、金沢にとっては歴史的な「地域財産」と言えます。ヨーロッパと日本のヘリテージに対する接し方の違いをモレシヤンさんが指摘されましたが、少なくとも金沢では、藩政期から残る史跡や建物を守るのではなく、日常生活に活かして活用されています。金沢の場合、ヘリテージが生活の一部と化しているの、ヘリテージの保全活動も自然に受け入れられると思いますね。

水野●「ヘリテージ」は「都市遺産」とも訳されますが、金沢にとっては歴史的な「地域財産」と言えます。ヨーロッパと日本のヘリテージに対する接し方の違いをモレシヤンさんが指摘されましたが、少なくとも金沢では、藩政期から残る史跡や建物を守るのではなく、日常生活に活かして活用されています。金沢の場合、ヘリテージが生活の一部と化しているの、ヘリテージの保全活動も自然に受け入れられると思いますね。

水野●「ヘリテージ」は「都市遺産」とも訳されますが、金沢にとっては歴史的な「地域財産」と言えます。ヨーロッパと日本のヘリテージに対する接し方の違いをモレシヤンさんが指摘されましたが、少なくとも金沢では、藩政期から残る史跡や建物を守るのではなく、日常生活に活かして活用されています。金沢の場合、ヘリテージが生活の一部と化しているの、ヘリテージの保全活動も自然に受け入れられると思いますね。

水野●「ヘリテージ」は「都市遺産」とも訳されますが、金沢にとっては歴史的な「地域財産」と言えます。ヨーロッパと日本のヘリテージに対する接し方の違いをモレシヤンさんが指摘されましたが、少なくとも金沢では、藩政期から残る史跡や建物を守るのではなく、日常生活に活かして活用されています。金沢の場合、ヘリテージが生活の一部と化しているの、ヘリテージの保全活動も自然に受け入れられると思いますね。

水野●「ヘリテージ」は「都市遺産」とも訳されますが、金沢にとっては歴史的な「地域財産」と言えます。ヨーロッパと日本のヘリテージに対する接し方の違いをモレシヤンさんが指摘されましたが、少なくとも金沢では、藩政期から残る史跡や建物を守るのではなく、日常生活に活かして活用されています。金沢の場合、ヘリテージが生活の一部と化しているの、ヘリテージの保全活動も自然に受け入れられると思いますね。

水野●「ヘリテージ」は「都市遺産」とも訳されますが、金沢にとっては歴史的な「地域財産」と言えます。ヨーロッパと日本のヘリテージに対する接し方の違いをモレシヤンさんが指摘されましたが、少なくとも金沢では、藩政期から残る史跡や建物を守るのではなく、日常生活に活かして活用されています。金沢の場合、ヘリテージが生活の一部と化しているの、ヘリテージの保全活動も自然に受け入れられると思いますね。

水野●「ヘリテージ」は「都市遺産」とも訳されますが、金沢にとっては歴史的な「地域財産」と言えます。ヨーロッパと日本のヘリテージに対する接し方の違いをモレシヤンさんが指摘されましたが、少なくとも金沢では、藩政期から残る史跡や建物を守るのではなく、日常生活に活かして活用されています。金沢の場合、ヘリテージが生活の一部と化しているの、ヘリテージの保全活動も自然に受け入れられると思いますね。

水野●「ヘリテージ」は「都市遺産」とも訳されますが、金沢にとっては歴史的な「地域財産」と言えます。ヨーロッパと日本のヘリテージに対する接し方の違いをモレシヤンさんが指摘されましたが、少なくとも金沢では、藩政期から残る史跡や建物を守るのではなく、日常生活に活かして活用されています。金沢の場合、ヘリテージが生活の一部と化しているの、ヘリテージの保全活動も自然に受け入れられると思いますね。

水野●「ヘリテージ」は「都市遺産」とも訳されますが、金沢にとっては歴史的な「地域財産」と言えます。ヨーロッパと日本のヘリテージに対する接し方の違いをモレシヤンさんが指摘されましたが、少なくとも金沢では、藩政期から残る史跡や建物を守るのではなく、日常生活に活かして活用されています。金沢の場合、ヘリテージが生活の一部と化しているの、ヘリテージの保全活動も自然に受け入れられると思いますね。

水野●「ヘリテージ」は「都市遺産」とも訳されますが、金沢にとっては歴史的な「地域財産」と言えます。ヨーロッパと日本のヘリテージに対する接し方の違いをモレシヤンさんが指摘されましたが、少なくとも金沢では、藩政期から残る史跡や建物を守るのではなく、日常生活に活かして活用されています。金沢の場合、ヘリテージが生活の一部と化しているの、ヘリテージの保全活動も自然に受け入れられると思いますね。

水野●「ヘリテージ」は「都市遺産」とも訳されますが、金沢にとっては歴史的な「地域財産」と言えます。ヨーロッパと日本のヘリテージに対する接し方の違いをモレシヤンさんが指摘されましたが、少なくとも金沢では、藩政期から残る史跡や建物を守るのではなく、日常生活に活かして活用されています。金沢の場合、ヘリテージが生活の一部と化しているの、ヘリテージの保全活動も自然に受け入れられると思いますね。

水野●「ヘリテージ」は「都市遺産」とも訳されますが、金沢にとっては歴史的な「地域財産」と言えます。ヨーロッパと日本のヘリテージに対する接し方の違いをモレシヤンさんが指摘されましたが、少なくとも金沢では、藩政期から残る史跡や建物を守るのではなく、日常生活に活かして活用されています。金沢の場合、ヘリテージが生活の一部と化しているの、ヘリテージの保全活動も自然に受け入れられると思いますね。



大樋 年雄氏 おおひ・としお 1958年金沢市生まれ。大樋焼を継承しながら現代美術を応用した茶会、空間プロデュースなど幅広く活躍。ロチェスター工科大学客員教授、東京藝術大学講師、日展会友

水野●「ヘリテージ」は「都市遺産」とも訳されますが、金沢にとっては歴史的な「地域財産」と言えます。ヨーロッパと日本のヘリテージに対する接し方の違いをモレシヤンさんが指摘されましたが、少なくとも金沢では、藩政期から残る史跡や建物を守るのではなく、日常生活に活かして活用されています。金沢の場合、ヘリテージが生活の一部と化しているの、ヘリテージの保全活動も自然に受け入れられると思いますね。

水野●「ヘリテージ」は「都市遺産」とも訳されますが、金沢にとっては歴史的な「地域財産」と言えます。ヨーロッパと日本のヘリテージに対する接し方の違いをモレシヤンさんが指摘されましたが、少なくとも金沢では、藩政期から残る史跡や建物を守るのではなく、日常生活に活かして活用されています。金沢の場合、ヘリテージが生活の一部と化しているの、ヘリテージの保全活動も自然に受け入れられると思いますね。

水野●「ヘリテージ」は「都市遺産」とも訳されますが、金沢にとっては歴史的な「地域財産」と言えます。ヨーロッパと日本のヘリテージに対する接し方の違いをモレシヤンさんが指摘されましたが、少なくとも金沢では、藩政期から残る史跡や建物を守るのではなく、日常生活に活かして活用されています。金沢の場合、ヘリテージが生活の一部と化しているの、ヘリテージの保全活動も自然に受け入れられると思いますね。

水野●「ヘリテージ」は「都市遺産」とも訳されますが、金沢にとっては歴史的な「地域財産」と言えます。ヨーロッパと日本のヘリテージに対する接し方の違いをモレシヤンさんが指摘されましたが、少なくとも金沢では、藩政期から残る史跡や建物を守るのではなく、日常生活に活かして活用されています。金沢の場合、ヘリテージが生活の一部と化しているの、ヘリテージの保全活動も自然に受け入れられると思いますね。

水野●「ヘリテージ」は「都市遺産」とも訳されますが、金沢にとっては歴史的な「地域財産」と言えます。ヨーロッパと日本のヘリテージに対する接し方の違いをモレシヤンさんが指摘されましたが、少なくとも金沢では、藩政期から残る史跡や建物を守るのではなく、日常生活に活かして活用されています。金沢の場合、ヘリテージが生活の一部と化しているの、ヘリテージの保全活動も自然に受け入れられると思いますね。

水野●「ヘリテージ」は「都市遺産」とも訳されますが、金沢にとっては歴史的な「地域財産」と言えます。ヨーロッパと日本のヘリテージに対する接し方の違いをモレシヤンさんが指摘されましたが、少なくとも金沢では、藩政期から残る史跡や建物を守るのではなく、日常生活に活かして活用されています。金沢の場合、ヘリテージが生活の一部と化しているの、ヘリテージの保全活動も自然に受け入れられると思いますね。

水野●「ヘリテージ」は「都市遺産」とも訳されますが、金沢にとっては歴史的な「地域財産」と言えます。ヨーロッパと日本のヘリテージに対する接し方の違いをモレシヤンさんが指摘されましたが、少なくとも金沢では、藩政期から残る史跡や建物を守るのではなく、日常生活に活かして活用されています。金沢の場合、ヘリテージが生活の一部と化しているの、ヘリテージの保全活動も自然に受け入れられると思いますね。

水野●「ヘリテージ」は「都市遺産」とも訳されますが、金沢にとっては歴史的な「地域財産」と言えます。ヨーロッパと日本のヘリテージに対する接し方の違いをモレシヤンさんが指摘されましたが、少なくとも金沢では、藩政期から残る史跡や建物を守るのではなく、日常生活に活かして活用されています。金沢の場合、ヘリテージが生活の一部と化しているの、ヘリテージの保全活動も自然に受け入れられると思いますね。

水野●「ヘリテージ」は「都市遺産」とも訳されますが、金沢にとっては歴史的な「地域財産」と言えます。ヨーロッパと日本のヘリテージに対する接し方の違いをモレシヤンさんが指摘されましたが、少なくとも金沢では、藩政期から残る史跡や建物を守るのではなく、日常生活に活かして活用されています。金沢の場合、ヘリテージが生活の一部と化しているの、ヘリテージの保全活動も自然に受け入れられると思いますね。

水野●「ヘリテージ」は「都市遺産」とも訳されますが、金沢にとっては歴史的な「地域財産」と言えます。ヨーロッパと日本のヘリテージに対する接し方の違いをモレシヤンさんが指摘されましたが、少なくとも金沢では、藩政期から残る史跡や建物を守るのではなく、日常生活に活かして活用されています。金沢の場合、ヘリテージが生活の一部と化しているの、ヘリテージの保全活動も自然に受け入れられると思いますね。

水野●「ヘリテージ」は「都市遺産」とも訳されますが、金沢にとっては歴史的な「地域財産」と言えます。ヨーロッパと日本のヘリテージに対する接し方の違いをモレシヤンさんが指摘されましたが、少なくとも金沢では、藩政期から残る史跡や建物を守るのではなく、日常生活に活かして活用されています。金沢の場合、ヘリテージが生活の一部と化しているの、ヘリテージの保全活動も自然に受け入れられると思いますね。

水野●「ヘリテージ」は「都市遺産」とも訳されますが、金沢にとっては歴史的な「地域財産」と言えます。ヨーロッパと日本のヘリテージに対する接し方の違いをモレシヤンさんが指摘されましたが、少なくとも金沢では、藩政期から残る史跡や建物を守るのではなく、日常生活に活かして活用されています。金沢の場合、ヘリテージが生活の一部と化しているの、ヘリテージの保全活動も自然に受け入れられると思いますね。

水野●「ヘリテージ」は「都市遺産」とも訳されますが、金沢にとっては歴史的な「地域財産」と言えます。ヨーロッパと日本のヘリテージに対する接し方の違いをモレシヤンさんが指摘されましたが、少なくとも金沢では、藩政期から残る史跡や建物を守るのではなく、日常生活に活かして活用されています。金沢の場合、ヘリテージが生活の一部と化しているの、ヘリテージの保全活動も自然に受け入れられると思いますね。

水野●「ヘリテージ」は「都市遺産」とも訳されますが、金沢にとっては歴史的な「地域財産」と言えます。ヨーロッパと日本のヘリテージに対する接し方の違いをモレシヤンさんが指摘されましたが、少なくとも金沢では、藩政期から残る史跡や建物を守るのではなく、日常生活に活かして活用されています。金沢の場合、ヘリテージが生活の一部と化しているの、ヘリテージの保全活動も自然に受け入れられると思いますね。

馬場 瑋造氏(建築評論家) フランソワーズ・モレシヤンさん(ファッション・エッセイスト) 宮田 人司氏(ゼン代表、ユニバーサル・クリエイター) 名古屋よりも多い 金沢のヘリテージ

馬場●宮田さんがおっしゃる通りに、旧県庁舎はとても魅力的な建物です。私も最初に拝見したとき、スペインの国営ホテル「パドラー」を思い出しました。古城や修道院など歴史的建造物を転用したホテルで、外観や廊下などは昔のままなので、建築当時の雰囲気を感ぜられます。水回りや窓などの内装は改装してあり、とても過ごしやすく観光客に人気です。水野●理想的なヘリテージの活用方法ですね。長い時間をかけて魅力が増したヘリテージを活用しない手はありません。馬場●ちなみに、一九八〇年代に日本建築学会が調査したところ、金沢には、明治から戦前までに建てられたヘリテージが二百四十以上あったそうです。当時のデータで富山は約六十、名古屋で約百九

十なので、金沢のヘリテージの多さに驚かされます。金沢では、これらのヘリテージをいかに活用していくかがカギになります。その際、知識人だけで発案するのではなく、市民全体から意見を募集するのもいいでしょう。水野●金沢は伝統芸能も豊かな土地柄ですから、その点で金沢をPRするアイデアはあります。水野●そうですね。例えば歌舞伎では、一つの公演で、若手の新人俳優が挑戦するもの、客受けするマニアックな内容のもの、花形スターによる演技や演出を大胆に崩したものの三つの演目で構成することがあります。「新人の育成」「伝統芸能の継承」「表現の革新」という三つの目的を一つのプログラムにまとめ、どのように、金沢にある面白いコンテンツを一つにまとめられ

大樋●私は、生まれも育ちも金沢ですが、金沢人はいざこの際でも、つい「すみませ

ん」「ごめんなき」と言ってしまう。金沢人の謙虚さが言葉ににじみ出ている。例えたとて、ここが、最近の金沢の若い人は、昔の人のような「すみません」「ごめんなき」という言葉を使わない。私たちが金沢の文化やまじ慣習、習慣を残そうと意識してないせいかもしれません。でも、若い人が意識しなければ

の器を使い、モレシヤンさんの演出による和洋折衷のテーブルコーディネートを紹介され、関心を集めました。このほか、今年四月、生

活の芸術化をめざし、市内の四大学の学生十五人で発足した「金沢若人おもしろな塾」の皆さんも、大正時代をほうふつさせる服装で加わってムードを盛り上げたハイカラな洋食がお客様に見え。また、大樋氏制作

の器を使い、モレシヤンさんの演出による和洋折衷のテーブルコーディネートを紹介され、関心を集めました。このほか、今年四月、生

活の芸術化をめざし、市内の四大学の学生十五人で発足した「金沢若人おもしろな塾」の皆さんも、大正時代をほうふつさせる服装で加わってムードを盛り上げたハイカラな洋食がお客様に見え。また、大樋氏制作

の器を使い、モレシヤンさんの演出による和洋折衷のテーブルコーディネートを紹介され、関心を集めました。このほか、今年四月、生

活の芸術化をめざし、市内の四大学の学生十五人で発足した「金沢若人おもしろな塾」の皆さんも、大正時代をほうふつさせる服装で加わってムードを盛り上げたハイカラな洋食がお客様に見え。また、大樋氏制作

の器を使い、モレシヤンさんの演出による和洋折衷のテーブルコーディネートを紹介され、関心を集めました。このほか、今年四月、生

活の芸術化をめざし、市内の四大学の学生十五人で発足した「金沢若人おもしろな塾」の皆さんも、大正時代をほうふつさせる服装で加わってムードを盛り上げたハイカラな洋食がお客様に見え。また、大樋氏制作

の器を使い、モレシヤンさんの演出による和洋折衷のテーブルコーディネートを紹介され、関心を集めました。このほか、今年四月、生

活の芸術化をめざし、市内の四大学の学生十五人で発足した「金沢若人おもしろな塾」の皆さんも、大正時代をほうふつさせる服装で加わってムードを盛り上げたハイカラな洋食がお客様に見え。また、大樋氏制作

の器を使い、モレシヤンさんの演出による和洋折衷のテーブルコーディネートを紹介され、関心を集めました。このほか、今年四月、生

活の芸術化をめざし、市内の四大学の学生十五人で発足した「金沢若人おもしろな塾」の皆さんも、大正時代をほうふつさせる服装で加わってムードを盛り上げたハイカラな洋食がお客様に見え。また、大樋氏制作

【コーディネーター】水野 誠一氏(ソニアル・プロデューサー) 福光 松太郎氏(福光屋社長、金沢経済同友会副代表幹事) 【パネリスト】大樋 年雄氏(陶芸家) 蜷川 有紀さん(女優) 馬場 瑋造氏(建築評論家)



大樋●私は、生まれも育ちも金沢ですが、金沢人はいざこの際でも、つい「すみませ

ん」「ごめんなき」と言ってしまう。金沢人の謙虚さが言葉ににじみ出ている。例えたとて、ここが、最近の金沢の若い人は、昔の人のような「すみません」「ごめんなき」という言葉を使わない。私たちが金沢の文化やまじ慣習、習慣を残そうと意識してないせいかもしれません。でも、若い人が意識しなければ

の器を使い、モレシヤンさんの演出による和洋折衷のテーブルコーディネートを紹介され、関心を集めました。このほか、今年四月、生

活の芸術化をめざし、市内の四大学の学生十五人で発足した「金沢若人おもしろな塾」の皆さんも、大正時代をほうふつさせる服装で加わってムードを盛り上げたハイカラな洋食がお客様に見え。また、大樋氏制作

の器を使い、モレシヤンさんの演出による和洋折衷のテーブルコーディネートを紹介され、関心を集めました。このほか、今年四月、生

活の芸術化をめざし、市内の四大学の学生十五人で発足した「金沢若人おもしろな塾」の皆さんも、大正時代をほうふつさせる服装で加わってムードを盛り上げたハイカラな洋食がお客様に見え。また、大樋氏制作

の器を使い、モレシヤンさんの演出による和洋折衷のテーブルコーディネートを紹介され、関心を集めました。このほか、今年四月、生

活の芸術化をめざし、市内の四大学の学生十五人で発足した「金沢若人おもしろな塾」の皆さんも、大正時代をほうふつさせる服装で加わってムードを盛り上げたハイカラな洋食がお客様に見え。また、大樋氏制作

の器を使い、モレシヤンさんの演出による和洋折衷のテーブルコーディネートを紹介され、関心を集めました。このほか、今年四月、生

活の芸術化をめざし、市内の四大学の学生十五人で発足した「金沢若人おもしろな塾」の皆さんも、大正時代をほうふつさせる服装で加わってムードを盛り上げたハイカラな洋食がお客様に見え。また、大樋氏制作

の器を使い、モレシヤンさんの演出による和洋折衷のテーブルコーディネートを紹介され、関心を集めました。このほか、今年四月、生

活の芸術化をめざし、市内の四大学の学生十五人で発足した「金沢若人おもしろな塾」の皆さんも、大正時代をほうふつさせる服装で加わってムードを盛り上げたハイカラな洋食がお客様に見え。また、大樋氏制作

の器を使い、モレシヤンさんの演出による和洋折衷のテーブルコーディネートを紹介され、関心を集めました。このほか、今年四月、生

活の芸術化をめざし、市内の四大学の学生十五人で発足した「金沢若人おもしろな塾」の皆さんも、大正時代をほうふつさせる服装で加わってムードを盛り上げたハイカラな洋食がお客様に見え。また、大樋氏制作

の器を使い、モレシヤンさんの演出による和洋折衷のテーブルコーディネートを紹介され、関心を集めました。このほか、今年四月、生

近代遺産活用ワークショップ 「大正ロマン 夜楽塾」

大正と共通点が多い現代 ヘリテージングシンポジウムに続いて、近代遺産活用ワークショップ「大正ロマン 夜楽塾」が開かれ、参加した約五十人がクラシック・モダンの切り口から、金沢らしい新たな文化の方向性を探りました。冒頭に行われたフロンティア・モレシヤンさんと大樋年雄氏のミニトークショーでは、気骨の明治から生まれた自由の大正を振り返りながら、「最近、母親

おしやれがはやってる。古い伝統をうまく取り込むことで、新しい時代に安定感が与えられる」と分析。シンポジウムのパネラーからは、「らん熟と言われる現代と大正には共通点が多

会場となった金沢市東山一丁目の「ビストロ金沢 とどろき亭」は大正時代の銀行を利用した建物で、ビュッフェパーティーでは、当時、流行したハイカラな洋食がお客様に見え。また、大樋氏制作

の器を使い、モレシヤンさんの演出による和洋折衷のテーブルコーディネートを紹介され、関心を集めました。このほか、今年四月、生

活の芸術化をめざし、市内の四大学の学生十五人で発足した「金沢若人おもしろな塾」の皆さんも、大正時代をほうふつさせる服装で加わってムードを盛り上げたハイカラな洋食がお客様に見え。また、大樋氏制作

の器を使い、モレシヤンさんの演出による和洋折衷のテーブルコーディネートを紹介され、関心を集めました。このほか、今年四月、生

活の芸術化をめざし、市内の四大学の学生十五人で発足した「金沢若人おもしろな塾」の皆さんも、大正時代をほうふつさせる服装で加わってムードを盛り上げたハイカラな洋食がお客様に見え。また、大樋氏制作

の器を使い、モレシヤンさんの演出による和洋折衷のテーブルコーディネートを紹介され、関心を集めました。このほか、今年四月、生

活の芸術化をめざし、市内の四大学の学生十五人で発足した「金沢若人おもしろな塾」の皆さんも、大正時代をほうふつさせる服装で加わってムードを盛り上げたハイカラな洋食がお客様に見え。また、大樋氏制作

の器を使い、モレシヤンさんの演出による和洋折衷のテーブルコーディネートを紹介され、関心を集めました。このほか、今年四月、生

活の芸術化をめざし、市内の四大学の学生十五人で発足した「金沢若人おもしろな塾」の皆さんも、大正時代をほうふつさせる服装で加わってムードを盛り上げたハイカラな洋食がお客様に見え。また、大樋氏制作

の器を使い、モレシヤンさんの演出による和洋折衷のテーブルコーディネートを紹介され、関心を集めました。このほか、今年四月、生

活の芸術化をめざし、市内の四大学の学生十五人で発足した「金沢若人おもしろな塾」の皆さんも、大正時代をほうふつさせる服装で加わってムードを盛り上げたハイカラな洋食がお客様に見え。また、大樋氏制作

の器を使い、モレシヤンさんの演出による和洋折衷のテーブルコーディネートを紹介され、関心を集めました。このほか、今年四月、生

活の芸術化をめざし、市内の四大学の学生十五人で発足した「金沢若人おもしろな塾」の皆さんも、大正時代をほうふつさせる服装で加わってムードを盛り上げたハイカラな洋食がお客様に見え。また、大樋氏制作

の器を使い、モレシヤンさんの演出による和洋折衷のテーブルコーディネートを紹介され、関心を集めました。このほか、今年四月、生

身近な近代遺産の活用を 地域活性の有効な手段に